

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4 年 1 月 19日

事業所名:スマイルキッズステーション きらきら

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		活動内容、利用者に応じて環境を整えている。	児童の特性に合わせて、グループ分けをし、安全に有意義に過ごせるよう活動を考える
	2 職員の配置数は適切である	○		子どもの特性に応じ職員を配置している。	子どもの状態に合わせ職員配置をしていく
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		児童の特性に応じた環境整備に努めている。	玄関の出入り口の段差をなくし、転倒の予防をしている。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		目標設定を行い職員間で振り返りを行っている。	定期的に業務内容の見直し・実施・振り返りを行っていく。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケートを実施し保護者等の意向を職員間で共有している。	アンケートの実施、集計を行い事業所内で保護者の方の意見やニーズを把握していく。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページにて結果を公表している。	毎年1月に結果を公表する。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	現在行ってない。	現在行ってないが、今後検討していく。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		外部研修、勉強会に参加している。	外部研修への参加、研修後の報告、事業所内での勉強会を実施していく。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		6ヶ月ごとの評価、保護者の方との情報交換を行い計画を作成している。	本人、保護者様のニーズを職員間で共有し特性・課題に合った支援を行っていく。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		アセスメントや日々の活動のフィードバックを行っている。	状況把握し支援に繋げていく。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		チームで行っている。	子どもの特性や課題に合わせた活動プログラムの立案を行う。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		色々な専門職で活動内容を立案している。	成長・課題に合わせた活動を計画していく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		子どもの特性を把握し目標設定を行い支援している。	休日には事業所外での活動を提供し、時間やお金の使い方を学んだり公共のマナーを学んだりする機会を増やす。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別、集団の必要性を分析し計画を行っていく。	成長や特性を把握して計画書を作成していく。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼時に活動内容、役割について伝え周知出来るようにしている。	内容、役割分担の変更時は支援開始までに伝えるようにしていく。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		その都度、振り返りを行う。	振り返りを行い次の活動や支援の仕方の見直し・改善を行っていく。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		色々な職員からの情報を聞き記録に記載する。	日々の記録を活用して支援内容や活動内容の立案に役立てるようにしていく。
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的にモニタリングを実施し、計画の見直し・作成をおこなっている。	成長・課題に合わせた目標や支援内容を立案していく。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		相互的に関わる機会を増やし個々の課題に対して支援を行っている。	活動を組み合わせ合わせて支援を行っていく。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		管理者及び専門職など必要に応じて参加している。	担当者会議後は、報告を行い情報共有を行い今後の支援内容を確認していく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校や保護者の方と連絡を取り合い情報共有を行っている。	こまめに連絡調整や学校への訪問・見学など行い情報共有を行っていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		現在、対象者はいない	受け入れる際は、事前に十分な情報を集め、体制を整える
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		情報共有を行っている。	連携をとり情報共有を行い支援へ繋がれるようにしていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		現在、移行の事例なし。	保護者様、関係機関に情報提供や移行シートを作成していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○	コロナの影響で実施できていない状況。	コロナの状況の見ながら見学、研修へ積極的に参加し支援内容を向上できるようにしていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	コロナの影響で実施できていない状況。	長期休みなどを利用して交流会も計画・実施を行えるように検討していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○	コロナの影響で実施できていない状況。	今後積極的に参加を行っていく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時に話す時間を設けている。	送迎時、連絡帳、電話連絡にて情報を伝え共有できるようにし共通理解を図っていく。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		検査や面談などを行いアドバイスや支援を行っている。	保護者の方の困り感や不安を軽減できるように家庭支援を行っていく。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時、変更時には説明やお知らせの文書を配布している。	見学、契約時に説明を行っていく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		随時、相談を受け話の傾聴やアドバイス等を行っている。	面談や電話対応など保護者の方が相談しやすい環境作りを行っていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	今年度は保護者会の計画はないが、コロナのが落ち着き次第計画していく。	交流会や開放日などを検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		その都度、迅速に苦情に対応し、改善するよう努めている。	苦情があった場合は記録に残し事業内で周知を行い業務改善に努めていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月お便りを配布している。	毎月のお便りや活動内容のお知らせを配布していく。
	35	個人情報に十分注意している	○		個人カルテは鍵付き棚にて保管し職員間でも留意している	個人情報の漏洩のリスクを理解し取り扱いを書類の取り扱いや対応を行う。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		意思疎通や情報伝達ができるように面談など行っている。	子ども、保護者の方の意思疎通が図りやすい伝達方法で情報伝達を行っていく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	実施していない。	コロナ感染状況をみながら、今後、検討していく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		契約時に説明を行っている。また状況に応じ、お便り等で連絡している。	職員間でも勉強会を実施し定期的にマニュアル確認を行い周知、説明を行っていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		毎月、設備点検を行っている。	必要な訓練を行っていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		研修に参加している。	定期的に勉強会を開催する。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		家族に説明を行い計画書に記載している。	計画書の内容を保護者の方へ説明し同意を了解を得て支援を行うようにしていく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アレルギーなどある場合は医師の指示書を提示して頂く。	利用開始前の契約時にアレルギーがあるか確認を行い、アレルギーがある場合は職員間で周知し留意していく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット報告書を毎月行い職員間で情報共有を行う。	毎月、ヒヤリハットの報告を行い改善点を話し合い事業所内で共有し、今後の業務に繋がられるようにしていく。